

6 3 6 1 - 6 6 0
平成 1 8 年 6 月 2 8 日

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成 1 8 年度病害虫発生予報第 3 号について
平成 1 8 年度病害虫発生予報第 3 号を発表したので送付します。

平成 1 8 年度病害虫発生予報第 3 号

向こう 1 か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。
発生予報の概要

作物名	病害虫名	発生量の 平年比	記載ページ
早期水稲	穂いもち	やや少	2
	紋枯病	やや少	2
	斑点米カメムシ類	やや多	2
普通期水稲	葉いもち	並	2
	ウンカ・ヨコバイ類	並	3
	コブノメイガ		3
	イネミズゾウムシ		3
露地野菜全般	アブラムシ類	並	3
	ハスモンヨトウ等チョウ目(鱗翅目)害虫	並	3
	コナジラミ類		3
トマト	トマト黄化葉巻病(TYLCV)		4
果樹全般	果樹カメムシ類	多	4
かんきつ	黒点病	並	4
	かいよう病	やや多	4
	ミカンハダニ	並	5
	チャノキイロアザミウマ	やや多	5
茶	炭疽病	並	5
	カンザワハダニ	並	5
	チャノココクモンハマキ	並	5
	チャハマキ	並	5
	チャノホソガ	並	5
	チャノミドリヒメヨコバイ	並	6
	チャノキイロアザミウマ	並	6
	クワシロカイガラムシ	やや多	6

作物の生育状況(6月中旬)

早期水稲は平年と比較し、草丈はやや低く、茎数は多、葉令はやや遅れており、出穂は 27 日頃であった。普通期水稲は、乳白防止のために移植を遅らせる地域が多く、平年の半分程度の進捗であった。温州ミカンは果実肥大期、茶は 2 番茶収穫前後であった。

7月の気象予報

向う 1 か月の天候は、平年に比べて曇りや雨の日が多く、気温は平年並、降水量は平年並が多い、日照時間は平年並か少ないと予想されている。

(1 か月予報 鹿児島地方気象台 6 月 23 日発表)

「ポジティブリスト制度」が始まりました。
農薬のドリフト防止に努めましょう。

発生予報の根拠および防除対策

早期水稲

1 穂いもち（やや少）

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の葉いもちの発生面積率2.6%（平年32.7%）、発病株率0.7%（平年14.6%）は平年よりやや少ない。

[防除上の注意]

- 1) 葉いもちが発生している場合は、穂ばらみ期から穂揃期の防除を確実に行う。
- 2) 雨が続く場合、感染の危険性が高いので雨間でも防除を行う。

2 紋枯病（やや少）

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の巡回調査では発生を認めていない。

[防除上の注意]

- 1) 穂ばらみ期の防除が基本となるが、上位葉鞘への進展が続く場合は2回目の散布を行う。
- 2) 平年に比較して曇りや雨の日が多いと予想されているので、昨年発生が多かったほ場では注意する。

3 斑点米カメムシ類（やや多）

平成18年度病害虫発生予察注意報第2号（6月23日発表）参照

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率13.1%（平年16.2%）は平年並、20回振り虫数1.1頭（平年0.4頭）は平年より多である。
- 2) 6月上旬のイタリアンライグラスにおけるすくい取り調査による生息数は、平年並であったが、一部の地域では特に高いほ場が認められた。

[防除上の注意]

- 1) 米の上位等級確保のためには穂揃期とその7～10日後の2回防除を厳守する。その後も発生が見られる場合には追加防除を行う。
- 2) 出穂の早い水田には集中的に飛来する恐れがあるので注意する。

普通期水稲

普通期水稲は、品質向上を目指した乳白米対策などにより、西北諸地域を中心に、移植時期が平年よりやや遅くなったため、調査圃場の一部は未移植の状態であった。

1 葉いもち（並）

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の巡回調査では発生は確認されなかった。
- 2) 7月の気温は平年並、降水量は平年並か多いと予想されている。

[防除上の注意]

- 1) 本田での初発生に注意し初期防除を徹底する。雨が続く場合、感染の危険性も高いので雨間に防除する。
- 2) 育苗時に葉いもちが発生していた場合、保菌率が高く本田で蔓延するので防除を徹底する。

2 ウンカ・ヨコバイ類（並）

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の巡回調査では、ツマグロヨコバイは調査ほ場15ほ場のうち3ほ場で確認されたが、ウンカ類は発生未確認であった。

[防除上の注意]

- 1) 梅雨期に飛来成虫が著しく多く、株当たり虫数が4頭以上になると稲の生育が抑制されるので早めに防除する。
- 2) 育苗箱施薬剤を実施したほ場では、薬効期間や発生状況を考慮して防除する。

3 コブノメイガ (-)

[防除上の注意]

- 1) 防除適期は飛来世代の次世代の発蛾最盛期に粒剤を施用するのが効果的なので、病害虫防除・肥料検査センターのホームページ等の発生予察情報に注意する。

4 イネミズソウムシ (-)

[防除上の注意]

- 1) 県北の一部では多発生ほ場が確認されている。本種の被害は幼虫による根の食害が最も大きく、多発すると、草丈・分けつが抑えられ、出穂も不ぞろいになり、著しい減収となるので注意を要する。

野菜・工芸作物全般

1 アブラムシ類 (並)

[予報の根拠]

- 1) 黄色水盤トラップ(佐土原)による誘殺数は平年並に推移している。

[防除上の注意]

- 1) 各種のウイルス病を媒介するので、発生初期の防除に努める。

2 ハスモンヨトウ等チョウ目(鱗翅目)害虫 (並)

[予報の根拠]

- 1) フェロモントラップ(都城、西都、佐土原)による誘殺数は平年並に推移している。

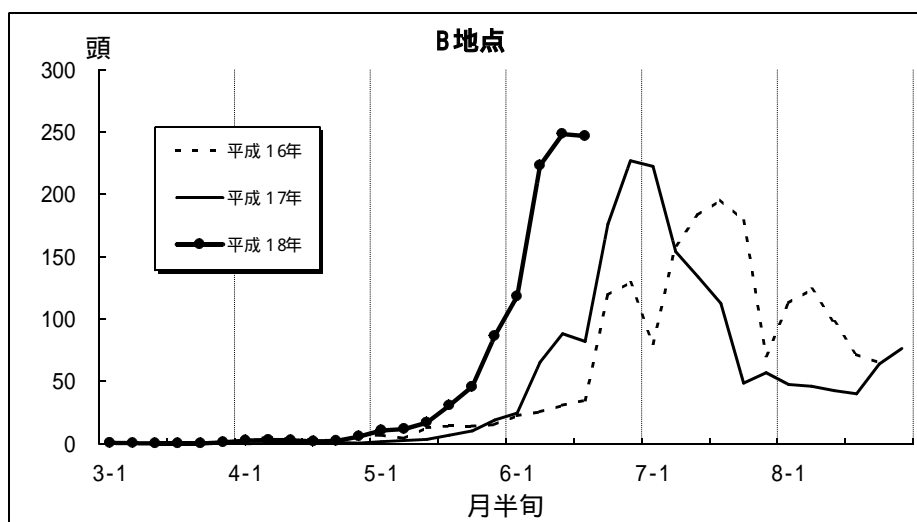
[防除上の注意]

- 1) 早期発見に努め初期防除を徹底する。

3 コナジラミ類(シルハ'ーリーフコナジラミ、タハ'コナジラミハ'イタイフ'Q) (-)

[防除上の注意]

- 1) 近年、施設果菜(主としてトマト・ピーマン)でコナジラミ類の寄生が増加傾向にある。
- 2) 野外での誘殺数が増加傾向にあるので、露地栽培、家庭菜園等での発生にも注意し、防除に努める。特に、次期作の育苗ほ周辺では厳重な警戒を行う。



施設栽培団地周辺の誘殺状況(宮崎市)

トマト

1 トマト黄化葉巻病 (TYLCV) (-)

[防除上の注意]

- 1) トマト黄化葉巻病はコナジラミ類 (シハ^レ-リ^コナジ^ラミ、タ^ハコ^ナジ^ラミ^ハイ^クイ^クQ) によって媒介されるので、発病株は見つけ次第抜根し、ほ場から持ち出し埋没処分する。
- 2) 栽培終了後は、株を抜き取り、10日間程度施設を密閉してコナジラミ類を死滅させた後、残さを処分する。
- 3) ほ場周辺の雑草はコナジラミ類の生息場所となり、次作への伝染源となるので除草を徹底する。また、ほ場周辺に持ち出したトマト残さや野良生えのトマト等には特に注意する。

果樹全般

1 果樹カメムシ類 (多)

平成18年度病害虫発生予察注意報第3号(6月23日発表)参照

[予報の根拠]

- 1) 県内3箇所に設置しているフェロモントラップによると、チャバネアオカメムシ誘殺数はすべての調査地点で平年に比べて多く推移している。また、ツヤアオカメムシについても、県北部で5月4半旬から急激な増加が見られている。
- 2) 果樹カメムシ類の餌となるヒノキ毬果の昨年の着果数が多かったことから、本年の越冬成虫量は多いと推測される。
- 3) 防除員報告によると、一部のカンキツ園において開花期に多数飛来した事例が確認されている。

[防除上の注意]

- 1) 果樹カメムシ類は園外から飛来し、地域や時期によって発生量が大きく変動するので、園内外を見回り、早期発見、早期防除に努める。

かんきつ

1 黒点病 (並)

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率25.0%(平年28.4%)、発病葉率4.6%(平年5.8%)は平年並である。

[防除上の注意]

- 1) 防除適期は幼果期、梅雨期、8~9月上旬であるが、降水量が多いほど発生が多くなるので、前回の防除から積算降水量300mmを散布間隔の目安として薬剤散布を行う。

2 かいよう病 (やや多)

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率25.0%(平年13.8%)、発病葉率2.1%(平年1.3%)はいずれも平年よりやや多である。

[防除上の注意]

- 1) 梅雨期に予防散布する。
- 2) ミカンハモグリガの防除に努める。

3 ミカンハダニ (並)

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率35.0%(平年27.4%)は平年並、寄生葉率1.1%(平年3.7%)は平年より少である。

[防除上の注意]

- 1) 生息密度が高くなると防除が困難になるので、寄生葉率30%(1葉当たり虫数0.5~1頭)を目安に防除を行う。

4 チャノキイロアザミウマ (やや多)

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の巡回調査では発生面積率10.0%(平年3.5%)、寄生果率0.9%(平年0.2%)は平年よりやや多である。

[防除上の注意]

- 1) 5月中旬から9月上旬の間、数回防除する。

茶

1 炭疽病 (並)

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率11.8%(平年36.0%)は平年より少であるが、県北の一部の調査園で多発生であった。
- 2) 7月の天候は平年より曇りや雨の日が多く、降水量は平年並が多いと予想されている。

[防除上の注意]

- 1) 三番茶を摘採する茶園では3番茶芽の萌芽期~1葉期に防除し、3番茶を摘採しない茶園ではさらに秋芽の生育期にも防除する。

2 カンザワハダニ (並)

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率47.1%(平年51.7%)、寄生葉率4.8%(平年8.8%)はいずれも平年並である。

[防除上の注意]

- 1) 同一薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤の口-テ-ション散布を実施する。

3 チャノコカクモンハマキ (並)

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の巡回調査では発生未確認である。

[防除上の注意]

- 1) フェロモントラップ調査による発蛾最盛期は、都城では6月2半旬、田野町及び三股町では6月3~4半旬で、次回の発蛾最盛期は7月3~4半旬頃と予想される。

4 チャハマキ (並)

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の巡回調査では発生未確認である。

[防除上の注意]

- 1) チャノコカクモンハマキの発蛾最盛期と10日以上差がなければ、同時防除する。

5 チャノホソガ (並)

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率11.8%(平年24.4%)は平年よりやや少、 m^2 当り巻葉数0.5葉(平年1.0葉)は平年並である。

[防除上の注意]

- 1) 平年の発蛾最盛期は6月下旬～7月上旬であるが、三角巻葉前に防除することが必要で、発蛾最盛期の約10日後（葉裏の表皮下でトンネル状に潜孔している時期）が防除適期である。
- 2) 脱皮阻害剤は遅効性なので卵期に散布する。

6 チャノミドリヒメヨコバイ（並）

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬（払い落とし）の発生面積率29.4%（平年38.9%）は平年よりやや少、払落虫数1.6（平年1.8）は平年並である。

[防除上の注意]

- 1) 萌芽直後から1、2葉期を重点に防除する。

7 チャノキイロアザミウマ（並）

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬（払い落とし）の発生面積率52.9%（平年62.6%）、払落虫数5.6頭（平年11.4頭）はいずれも平年並である。

[防除上の注意]

- 1) 三番茶を摘採する園では、新芽生育初期に加害されると減収程度が大きいいため、萌芽期の防除が重要である。
- 2) 深刈りなどの更新処理を行った園では茶芽の生育期間が長く、被害を受けやすいので残効の長い薬剤で防除する。

8 クワシロカイガラムシ（やや多）

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率29.4%（平年23.3%）、寄生株率11.3%（平年9.4%）は平年よりやや多である。

[防除上の注意]

- 1) 最近、増加傾向にあるので発生を確認したら早めに防除する。
- 2) 防除適期は幼虫ふ化開始から1週間後、または幼虫ふ化最盛期なので、ふ化状況をよく観察して防除する。
- 3) 薬剤散布は、成木園で10a当たり1,000リットル程度を目安に、噴口を茶株の中に差し込むなどして枝幹に十分かかるようにていねいに散布する。

農薬散布時のドリフト対策について

- 1 ポジティブリスト制度の施行に伴い、農薬の使用については今まで以上に厳重な注意を払うことが必要です。
- 2 風の弱いときに、ノズルや散布方向、噴霧圧力などに注意して、適正な農薬散布を心がけましょう。
- 3 地域でよく話し合い、農薬の使用時期や農産物の栽培内容などを十分調整しましょう。
- 4 農薬の散布について疑問点がありましたら、病虫害防除・肥料検査センターもしくは最寄りの農業改良普及センターへお問い合わせください。

その他

- 1 農薬適用の有無などについては次のホームページで確認する。
日本植物防疫協会ホームページ <http://jppn.ne.jp>
農林水産省ホームページ <http://www.maff.go.jp/nouyaku/>
- 2 農薬の使用に当たっては、農薬安全使用基準の遵守並びに危被害の発生防止に努める。特に水質汚濁性農薬ベンゾエピン剤（商品名、マリックス乳剤、粒剤等）は使用しないこと。

3 発生量（程度）の区分

多 い	（高 い）	やや多いの外側 10%の度数の入る幅
やや多い	（やや高い）	平年並の外側 20%の度数の入る幅
平年並		平年値を中心として 40%の度数の入る幅
やや少ない	（やや低い）	平年並の外側 20%の度数の入る幅
少ない	（低 い）	やや少ないの外側 10%の度数の入る幅

（平年値は過去 10 年間の平均）

4 予察情報の種類

病害虫防除所から発表する情報は次の 5 つです。

- 1) 予 報・・・向こう 1 か月の発生状況を予測し、毎月 25 日前後に発表する。
- 2) 注 意 報・・・主要な病害虫の多発生が予想され、かつ早めに防除が必要な場合に発表する。
- 3) 警 報・・・主要な病害虫の大発生が予想され、かつ緊急に防除が必要な場合に発表する。
- 4) 特 殊 報・・・県内で初めて発生を認めた病害虫がある時や、病害虫の発生様相が特異な時に発表する。
- 5) 防除情報・・・注意をうながす必要がある病害虫の発生状況や、各種の防除技術指導情報について随時発表する。（従来の防除速報にあたる）

お知らせ (<http://www.jppn.ne.jp/miyazaki/>)

病害虫防除・肥料検査センターでは、ホームページで情報を提供しています。予察情報の根拠となる地域別調査データ、防除対策等を登録しています。ぜひご利用ください。

【文書取扱】

病害虫防除・肥料検査センター 櫛間

TEL:0985-73-6670 FAX:0985-73-7499

E-mail: byogaichu - hiryo

@pref.miyazaki.lg.jp